



# 会 山 里 千 場 広 の 味 趣

写真 1940年頃の朝日会館

## 川柳 十二句

十三回生 美川 州平

妻を亡くして、それ迄続けていた短歌から川柳へと百八十度方向を転換しました。『妻逝きて…』、『…妻の亡きあと』では辛い日々がますます深みに沈み込むことに気づいたからです。

川柳には色々な流派がありますが、私は「シニアユーモア川柳教室」の戸を叩きました。年寄りの日常にみられる珍奇な失策を嘆かず、むしろおろらかに笑いとばそうという主旨の句作を中心とする教室で、日本川柳会の重鎮津田 暹氏の指導を受けています。

課題句と自由吟が月一回の句会に出されるものと、投稿によるものを併せ毎月数百句集まり、秀句八句が月報に掲載されます。入門以来一年半、幸いにも選ばれた私の句を恥ずかしながら披露致しますのでご笑覧を。

もとラガー今じゃひとりで転んでる

それぞれの記憶合わせて盛り上がる  
(クラス会)

自販機のお釣り気にして品忘れ

若ぶって優先席に近寄らず

借りた傘以前忘れた俺のもの

孫からの電話代われと急ぐジイジ

苦笑い眼鏡のまんま目薬と

人言に無害と成ってモテている

酒タバコ取りあげられた敬老日

朝帰り犬は甘える妻吼える

発車ベル忘れた傘の一人旅

会社やめもう使わない顔仕舞う

美川 州平 (82歳)